全ての民主的学友は反戦同盟に結集しよう！

解放勢力の大攻勢、米国内反戦行動と連帯し、田中の侵略加担、軍事力強化と対決しよう。

10・21国際反戦デー　こクラスから決起を！

解放勢力の攻勢に応え、国際連帯の強化を！

11月米大統領選挙目前にして、ニクソン政権は全世界のベトナム反戦運動と何とか妥協をめざし、きりに和平交渉のニュースを流している。

しかし、共同声明は、この政府の侵略性を一層鮮明に暴露した。

ベトナム和平が臨時革命政府の提案（民族和解政府の樹立、ベトナム軍のみ撤退）を拒否し、ベトナムから平和を奪いとることこそが、ベトナム人民の最大の課題であることを明らかにした。

ニクソンが、ベトナムとアジアの平和と連帯（民族自治権の承認）を約束することを認めることなくして南部ベトナム解放闘争の終結はありえないのである。そして、インドシナにおける新植民地政策（ベトナム、カンボジア、ラオス、計画）を全土に拡大し、敗北を決定的にもった帝国主義者は、ナチス、ドイツの戦争犯罪をはるかにしのぐ史上最凶悪の連日三百機以上に及ぶB52を含む北南爆撃強化によってのみ、自己の立場を維持している現在、全世界の平和勢力の任務は明らかである。北、南爆撃即時停止、二項目提案の固支持の国際世論を南部ベトナム解放勢力・米反戦運動と堅持している解放勢力に対して連日百ヶ所以上に渡る攻勢を集中し、一層強化することに他ならない！

当反戦デーは、10・21国際反戦デーを前に、総評は国際アピールを発し、全世界にインドシナ反戦闘争の強化を呼びかけると共に、田中内閣の下で進む、ベトナム侵略加担、四次防・五次防、自衛隊沖縄移駐等軍国主義強化と対決してゆくことを確認している。

相模原米軍戦闘車両搬出阻止闘争は、日本政府のインドシナ侵略加担の事実を具体的に暴露すると同時に、日中共同声明にうたわれた両国のいずれもが平和地域において覇権を求めるべきでなく…と…当該戦車は、撤去、ベトナム軍の使用に供されても、安保条約上排除されるものではない。という政府の見解を暴露した。

この政府の「平和宣言」と全面的な侵略加強化宣言は、「中国は四次防を認めた」と自衛力を承認した。等の発言によってうめようとしている。しかしこの策動は、日沖縄での「なわれた自衛隊強行派兵、栄野川氏殺人に抗議する「返還後最大の集会において、きびしく追及された。又、ベトナム直接たたかって二転三転する政府の出てきの世論操作に対して、東京都、横浜市をはじめとして全国の反戦反基地闘争は燎原の火の如く広がっている。

政府のギマン的「平和宣伝」を打ち破り、10・21国際反戦デーに向け、侵略加担、軍事力強化と対決する反戦平和の闘いを各学園から大衆的決起を実現しよう。

今こそ10・21国際反戦デーを闘うクラスでの意志統一を！

（ヘウラに続く）

10・21反戦デー　全学生集会

民学同

1972、10、9

このような極めて重要な意義を10・21国際反戦デーは持っているのであるが、残念ながら市大においてはクラブにおける取り組みは未だ不十分であり、多くの反戦意識を持つ学友が、統一して斗う基盤が確立されていない。

学友諸君！このような情況下で今、我々がなければならないのは更に多くの学友の中に、10・21国際反戦デーを斗う意義を徹底し、反戦意識を高めることである。そして、このことはクラブ運営委員会を軸とする日常のクラブ活動の一環として行なわれねばならないし、その中で更にクラブ活動を強化・発展させていかねばならない。とりわけ、LT、TT、JT、ET、HTを中心に今春期のインドシナ反戦で培ったクラブ内の連絡を更に強化していく必要がある。この様なクラブ基礎にした運動のみが現在の市大の諸潮流闘争を克服し、全国的にも停滞を余儀なくされ、退廃を深めている学生運動を克服できる唯一の道である。

学友諸君！このような時、学生斗争、革マル諸君は諸君の学生会をめぐっての運動が、市大の学生運動を統一し、学生の利益を擁護することなく、けんかで確立の意識を喪失事件をもたらすのみであるということを忘れて、きょうもまた学生大会論議を繰り返している。

学友諸君！情勢は変化されているということを強調して、学内の客観的情勢を見ることなく学生大会開催にだけ頭を一杯にしている学生大会主義者は、最も困難なクラスからの取り組みを放棄し、一発勝負屋である。そして、それは必然的にセクト主義の発生基盤となっている。

全市大の学友諸君！学生大会の私物化を許さぬクラブからの出発を克ちとるべく、クラブ活動の一層の展開を。

全ての民主的学友は民学同に結集しよう。

民主主義学生同盟市大支部（統一会議）